

スナツプの池

むかし
昔 ある ところに、
スナツプという ワニが す 住んで
いました。スナツプは 緑色で
ウロコにおおわれていて、
かお なが
顔は 長く、とがった
ギザギザの は 歯が いっぱい
ありました。

スナツプは すいめん 水面の すぐ 下を 泳いでいたので、
おお 大きくて ま め 真ん丸な 目だけが、水の上につき出て
いました。それで、およ まわ 泳ぎ回りながら いけぜんたい 池全体を
み は 見張るのです。

スナツプは、「この 池は、ぼくの
す 住みかだぞ。」と、ひとりごとを い 言いました。
それで、ほかの だれかが 池に 遊びに
くるのが いやでした。スナツプは、その 池が
自分だけの ものだ とおも 思っていたのです。
時には、フラミンゴたちが なが あし
水の中を 歩いてきました。「しばらく
池の中にも いいかい？
ここで 遊んだり 水を の 飲むのは、
き も 気持ちがいいんだ。」

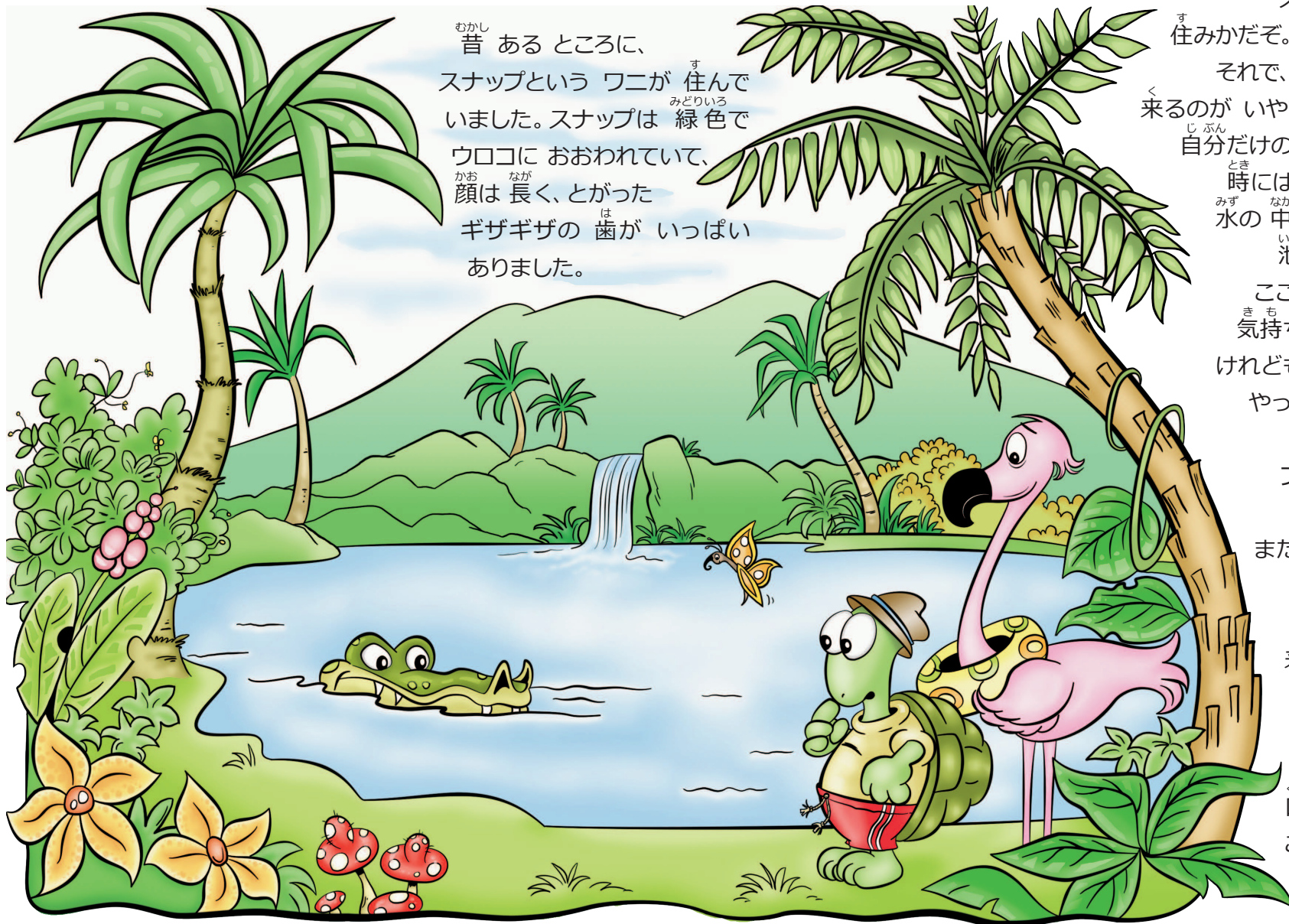
けれども、スナツプは くち 口を パクン!と
やって い 言いました。「だめだよ！

ここは、ぼくの 池なんだ。
フラミンゴなんかに入ってきて
ほしくは ないよ。」

また ある 時には、まる おお
かたい こうらの カメたちが、
よたよたと 歩いて やって
きました。「ねえ、スナツプ！

池の はしこの 浅い 所に
しばらく いても いいかい？」

すると、またしても スナツプは
くち 口を パクン!「だめだよ。池が
ごたごたするもの！ ここは、
ぼくの 特別な 池なんだ。いて
いいのは、ぼくだけだよ。」



そのうち、スナッパは
だんだんと さびしくなっ
てきました。もう だれも、池の
そばには 来ないからです。
スナッパは、ただ 池の はし
からはしまで 泳いで 行ったり
来たりを くり返すだけでした。
あまりにも 池を 守ろうと
し過ぎたため、今度は とても
さびしくなってきた しまった
のです。

ある日、スナッパは ある
ことを 思いつきました。(池の
周りに ほかに 何が あるのか、
探検して 見てこよう。)

スナッパは、草むらの 上を
よたよたと 歩いていきました。
すると まもなく、もう 一つの
池が ありました。その 池は
とても 小さくて、水も どん
できたなく よどんでいます。
でも、そこは 動物たちで
いっぱいでした!

みんな、とても 楽しそうです。
ものすごく 大きくて 丸々と
太った カバは、どろの 中を
ごろごろ、ごろごろ、転がっ
ています。2匹の カメは、池の
はしから はしまで 追いか

ては 追いかけられを して、
おにごっこを しています。
すらっとした 美しい ピンクの
フラミンゴたちも、池の 中に
立って、水を バシャバシャ

しています。
スナッパは、池の すぐ
そばの しげみに かくれて、
みんなが 遊んでいる 様子を
見ていました。みんな、とても

楽しそうです。みんなに
見つかったら、自分が
みんなを 追いはらったように
自分も 追いはられるのでは
と 心配になったので、

スナッパは まもなく しげみを
出て、自分の 池に すたすたと
もどっていきました。

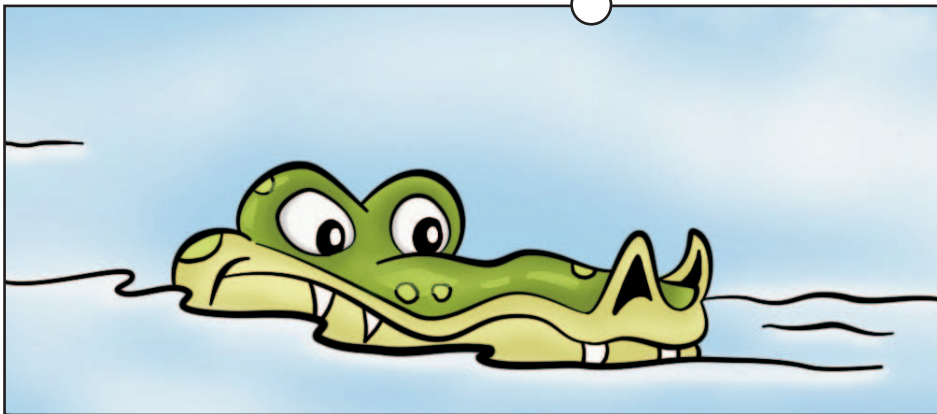
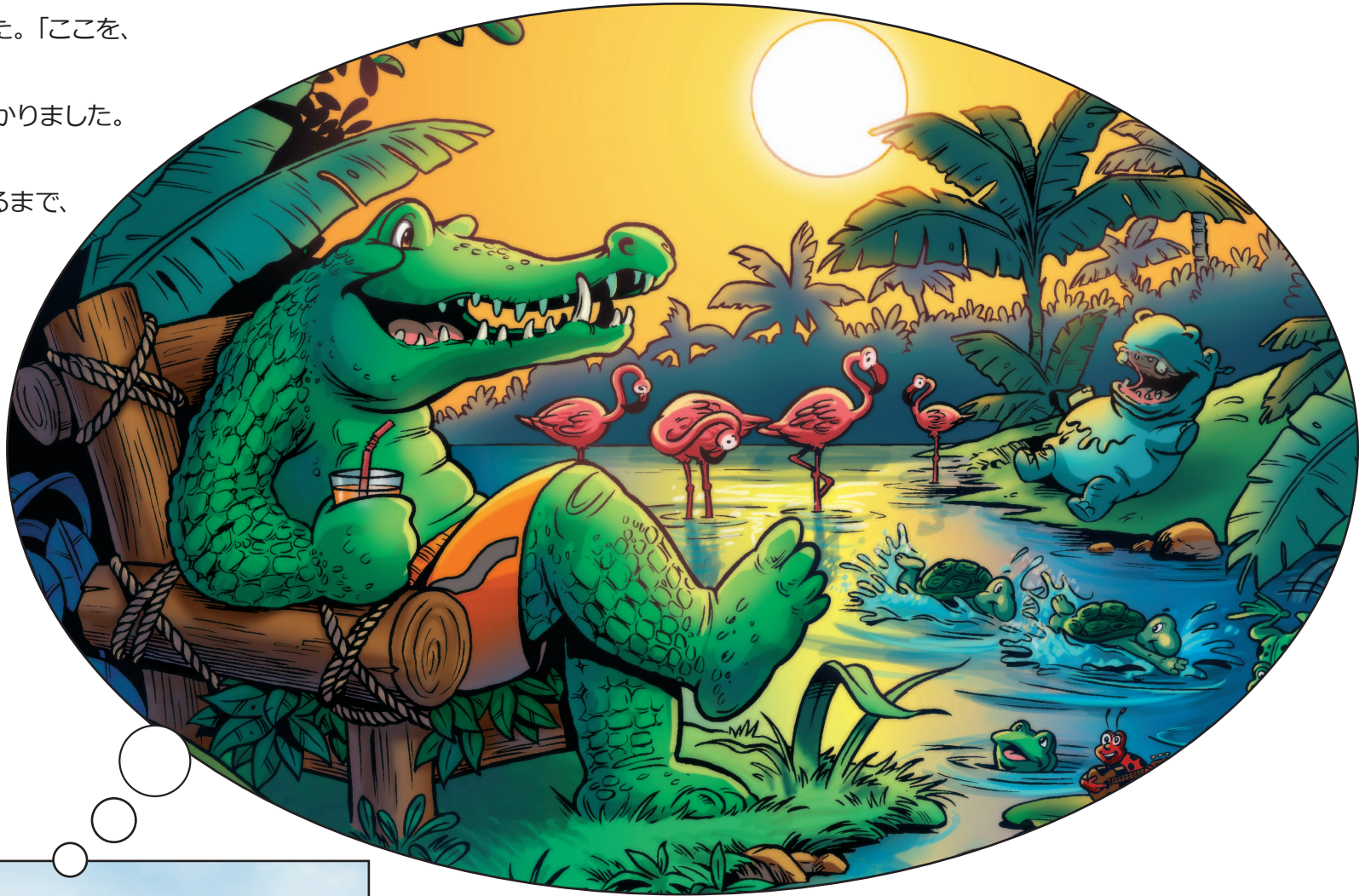


スナッパは 1日 中、自分の 池で ひとりぼっちでした。
動物たちが 遊ぼうとして 来るたびに みんなを 追いはらっ
ていた ことを 思い出して、とても 悲しくなりました。悪い
ことを してしまったと 思いました。

(動物たちが ぼくの 池に 遊びに もどってくるには、
何を したら いいだろう?) スナッパは 考えました。

そして、あることを^{おも}思いつきました。「ここを、
さいこう^{さいこう} いけ^{いけ} 最高の池にするぞ!」

スナップは、すぐに^{しごと}仕事に^と取りかかりました。
まず、池の^{いけ}はしっこに、どろの^{あな}穴を
ほりました。大きな^{おお}大きな^{おお}穴^{あな}になるまで、
やわらかい^{じめん}地面を^{ほって}ほって、
ほりまくりました。



つぎ、^{おお}大きな^{おお}大きな^{くち}口^あを開けて、^{じめん}地面に^お落ちていた^は葉っぱを^きごっそりと
かき^{あつ}集め、それを^{いっぱい}いっぱい^あに^{いけ}積み^{まわ}上げました。池の^{くだもの}周りには^き果物の^き木が
たくさん^{あつた}あったので、木から^お落ちた^{くだもの}果物を^{ひろ}拾って、^は葉っぱの^{やま}山の^{うえ}上に
のせました。ついに、^{ぜんぶ}全部^{できあ}出来上がりです。

スナップは、^{ちい}小さな^{いけ}池の^{ほう}に、
よたよたと^{ある}歩いて^い行きました。池に^{いけ}着くと、
スナップは^{あたま}しげみから^だ頭を出して、^{くち}口を
パクン！^{どうぶつ}動物たちは^{みんな}みんな、^{して}いた
ことを^や止め、^{あたら}そうっと^{あたら}辺りを
^{みまわ}見回しました。いっしゅん、^{みんな}みんなは
^{しんぱい}心配に^なりました。(大変だ！
スナップが、^{こんど}今度は^{なに}何を^い言いに
^き来たんだらう?)と^{おも}思った
からです。また^な何か^い意地悪な
ことでも^い言うのでしょうか。

いいえ、スナップは^{まえ}前とは
ちがいました。

「ねえ、みんな！ もしよかったら、
ばくの^{おお}大きな^{いけ}池に^き来て^{あそ}遊んでいいよ。
^{いま}今まで^い意地悪を^いして、^いごめんね。

ばく、^{あな}すてきな^{つく}どろの^{くだもの}穴を^た作ったんだ。それから、^は果物と
^{あつ}葉っぱも^い集めたよ。みんなが^いおやつに^た食べれるようにね。よかったら、
^き来て^{あそ}遊んでいいよ。」

^{どうぶつ}動物たちは^{みんな}みんな、^{かお}顔を^み見合わせて、^あいっせいに^い言いました。

「それはいいね！」

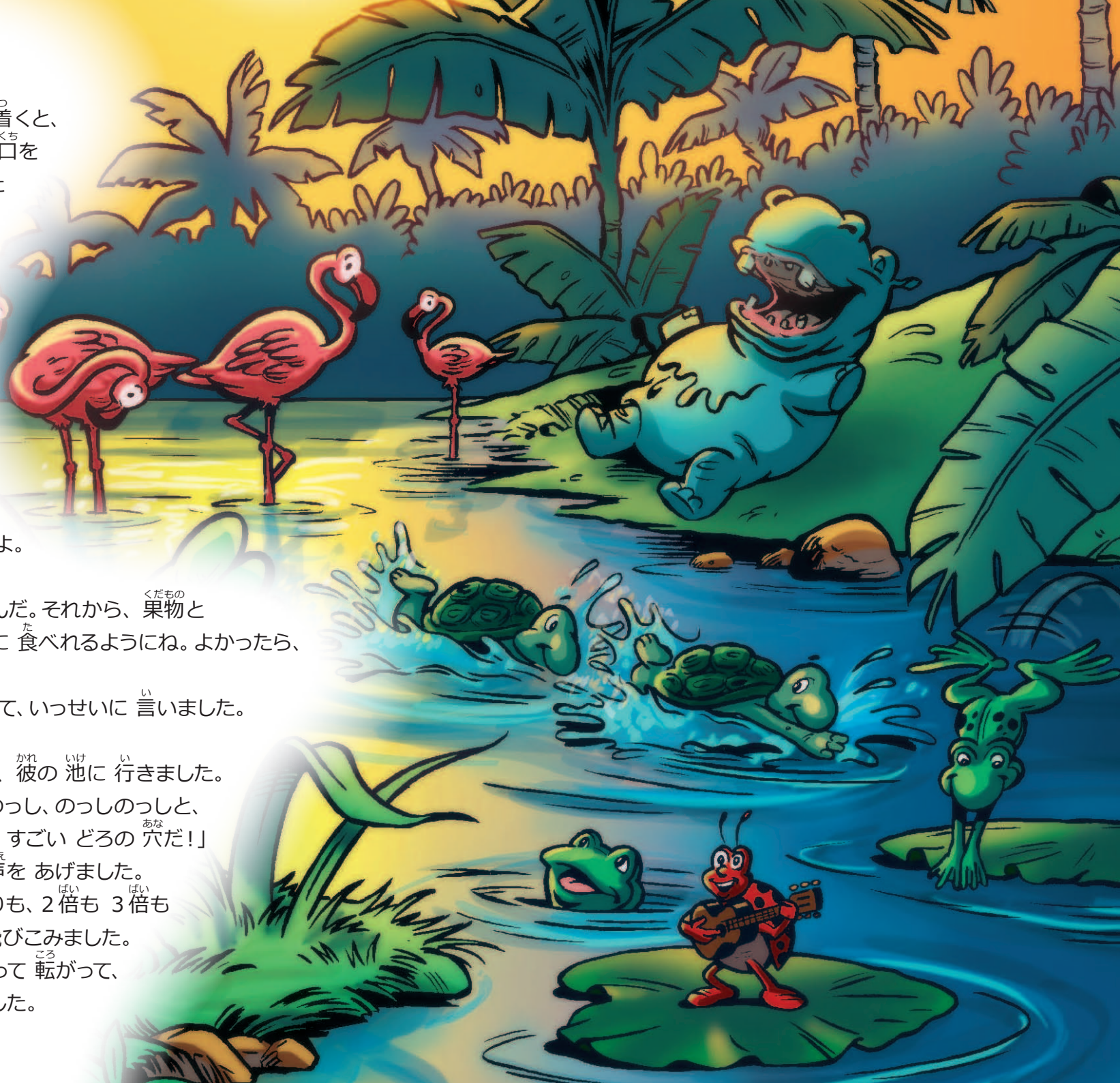
^{どうぶつ}動物たちは^{あと}スナップの^{かれ}後について、^{いけ}彼の^い池に^い行きました。

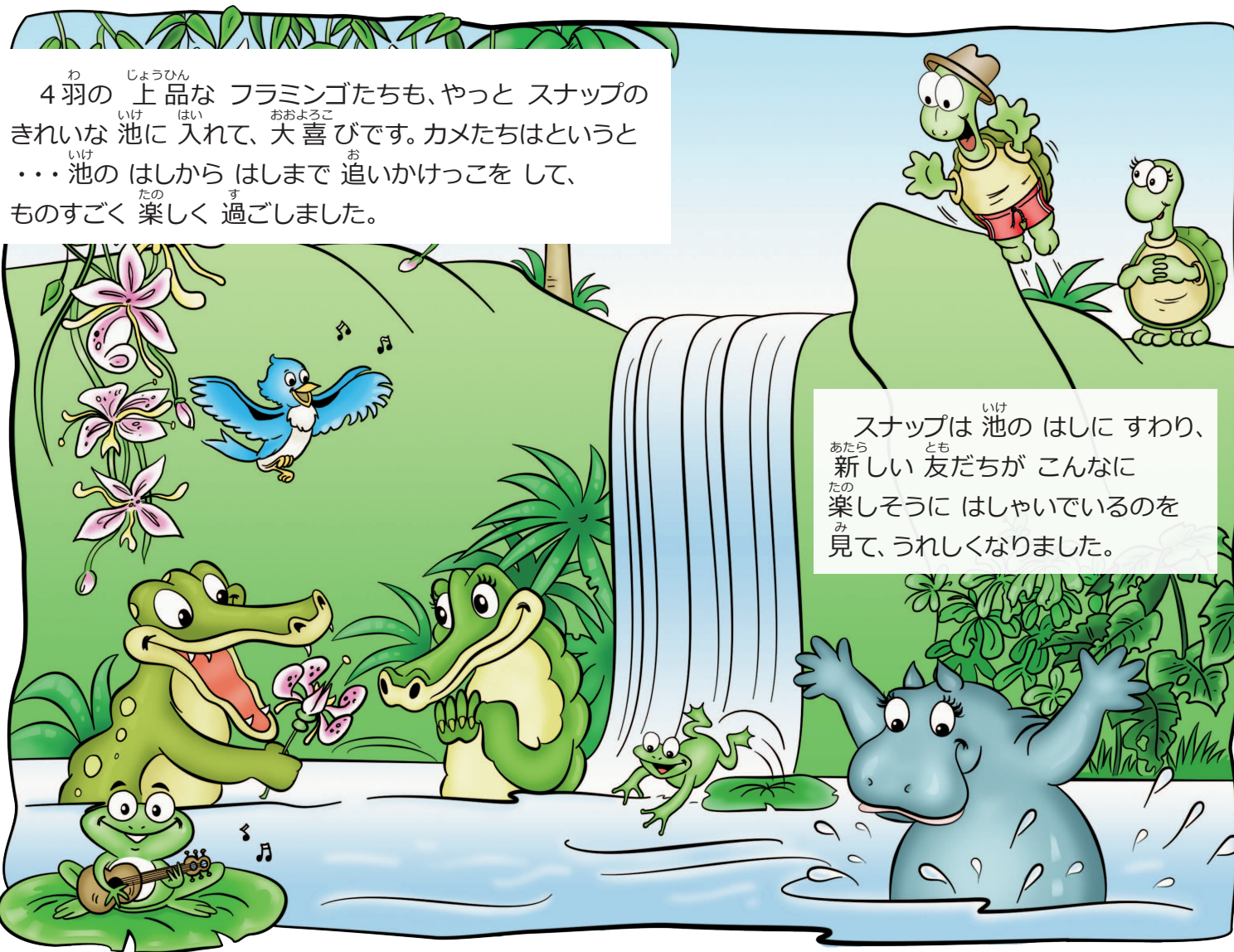
^{おお}大きな^いカバの^{あな}ヘンリーは、^ののっしのっし、^ののっしのっし、
^{いけ}池に^む向かって^い行きました。「うわあ！ ^{あな}すごい^{あな}どろの^{あな}穴だ！」

スナップの^{いけ}池に^つ着くと、ヘンリーは^{こえ}声をあげました。

^{ちい}小さな^{いけ}池の^{ほう}に^ああった^{あな}どろ穴よりも、^{ばい}2倍も^{ばい}3倍も
^{おお}大きな^{あな}穴です。ヘンリーは^{おも}思わず、^と飛びこみました。

バシャン！^{あな}穴の^{なか}中で^{ころ}ぬるぬる^{ころ}すべて^{ころ}転がって、
それはそれは^{たの}楽しい^{とき}時を^す過ごしました。





4羽の上品なフラミンゴたちも、やっとスナップの
きれいな池に入れて、大喜びです。カメたちはというと
・・・池のはしからはしまで追いかけてっこをして、
ものすごく楽しく過ごしました。

スナップは池のはしにすわり、
新しい友だちがこんなに
楽しそうにはしゃいでいるのを
見て、うれしくなりました。

教訓：分け合うと、まわりの人たちが幸せになるだけでなく、
自分も幸せになれる。

日がたつと、もっともっとたくさんの
動物たちがスナップの池に来るよう
になりました。その辺りで最高の池だ
といううわさが広まったからです。

ある日、スナップはまた別の動物が
草地をぬけてゆっくりと近づいてくる
のに気がつきました。思わず、スナップの
目がかがやきました。メスのワニです！

「こんにちは！ あなたの名前は？」
近づいてくると、メスのワニが
スナップに聞きました。

「ぼく、スナップです。」

「わたしはフローラよ。あなたの池が
最高って聞いて、やって来たの。少し
ここにいてもいいかしら？」

「もちろん、喜んで！」 スナップは
声高に答えました。「ぼくたち、友だちに
なれるね。」

「ええ、そうね。」 フローラも
言いました。「ここ、とても気に入ら
う。あなたは、とてもやさしそうな
ワニだもの。」

ということで、スナップとフローラは、
それからというものの、いっしょに幸
せに暮らしましたとさ。

スナップは、自分が分け合うことを
学べたことを、とてもうれしく思
いました。分け合うことで、たくさん
の友だちに恵まれたのですから。